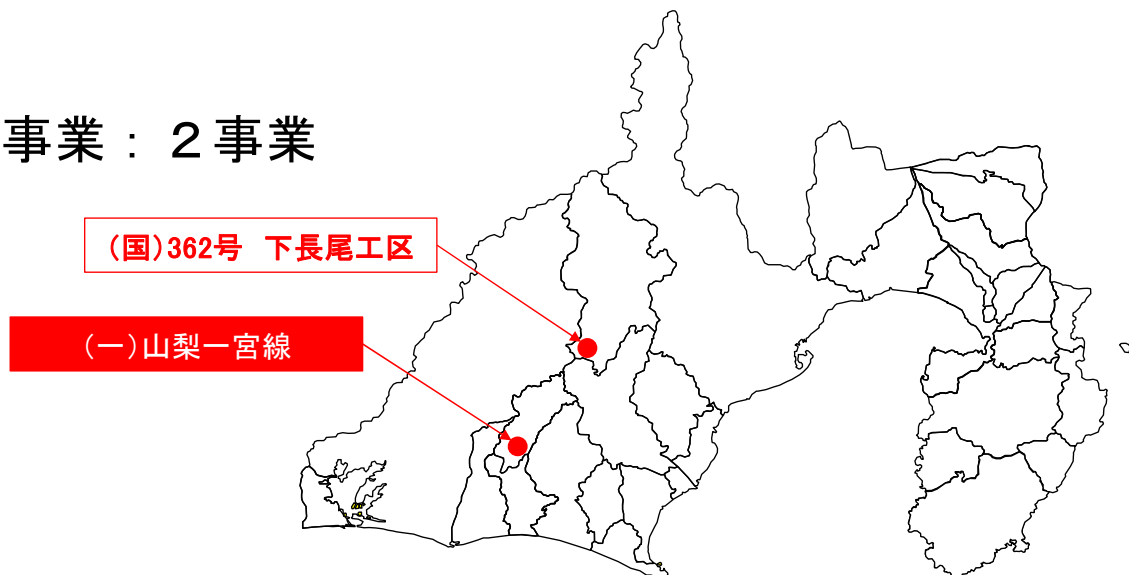


番号	2	令和8年度公共事業再評価調書					担当課名	道路整備課																			
事業名	道路改良事業					事業主体	静岡県																				
ふりがな	いっばんけんどう やまなしいちのみやせん					関係市町	周智郡森町																				
箇所名	一般県道 山梨一宮線																										
事業採択年度	平成 29 年度			計画期間	平成29年度 ～ 令和12年度																						
用地着手年度	令和 3 年度			工事着手年度	令和 7 年度																						
再評価理由※	前回再評価後5年経過																										
全体事業費	百万円 1,200	投資状況 (百万円)	～R6年度 338	R7年度 85	R8年度見込 38	計 461																					
事業概要	(1) 事業目的 (一) 山梨一宮線は静岡県袋井市上山梨から森町円田に至る路線であり、地域交通を担う重要な幹線道路である。事業区間に並行する現道区間は歩道がなく、人家が連担した狭隘な区間であるため、通行に支障をきたしている。 こうした課題への対応のため、本事業により狭隘区間のバイパス整備を行う。 (2) 事業内容 計画概要： 延長 1,073m 計画幅員： 車道 6.5m (全幅14.5m) 車線数2車線 (バイパス)																										
【視点1】	(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 森町では新規事業所数が増加しており、内陸フロンティア推進区域内では工業団地が造成され、企業立地が進んでいる。 (2) 事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 8 年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>1.8</td><td>4.6</td><td>6.6</td><td>7.7%</td></tr></table> ・総便益 (B) 20.9 億円 (走行時間短縮便益：18.52億円、走行経費減少便益：2.11億円、交通事故減少便益：0.23) ・総費用 (C) 11.4 億円 (建設費：10.93億円、維持管理費：0.48億円、用地残存価値：0.2億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・広域道路ネットワークの強化 ・安全な交通の確保 (3) 事業の進捗状況 (令和 8 年度見込み) <table><tr><td>区 分</td><td>進捗率</td><td>内 訳</td></tr><tr><td>事業費</td><td>38.4%</td><td>(461 百万円 / 1,200 百万円)</td></tr><tr><td>事業量</td><td>9.8%</td><td>(78 百万円 / 794 百万円)</td></tr><tr><td>用地取得</td><td>25.2%</td><td>(6,508 m² / 25,858 m²)</td></tr></table> 評価 継続が妥当							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.8	4.6	6.6	7.7%	区 分	進捗率	内 訳	事業費	38.4%	(461 百万円 / 1,200 百万円)	事業量	9.8%	(78 百万円 / 794 百万円)	用地取得	25.2%	(6,508 m ² / 25,858 m ²)
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																								
1.8	4.6	6.6	7.7%																								
区 分	進捗率	内 訳																									
事業費	38.4%	(461 百万円 / 1,200 百万円)																									
事業量	9.8%	(78 百万円 / 794 百万円)																									
用地取得	25.2%	(6,508 m ² / 25,858 m ²)																									
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 事業内容に理解が得られていなかった地権者との契約がR7に完了し、今年度も、工場を補償対象とする地権者との契約を予定しているなど、用地取得が着実に進捗していく見込みである。 また、用地を取得できた区間については工事に着手しており、今年度は140mの水路工を実施する予定である。 評価 継続が妥当																										
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 整備に必要となる約1.7万m³の盛土材について、4.2km離れた袋井市内の切土工事の発生土を活用し、工事のコスト削減に努めていく。																										
対応方針 (案)	(1) 対応方針 (案) 本事業を 【 継続 】 する。 (2) 理由 本事業は、東名高速道路や新東名高速道路と連携した広域道路ネットワークの強化や地域の安全な交通の確保に資する重要な役割を果たす道路事業である。 地元市町や関係者から成る建設促進期成同盟会をはじめ、多くの団体から整備推進の強い要望が出されており、地元の期待は大きい。 費用便益比 (B/C) は1.8と1.0を上回る。 以上から、事業を継続し、早期完成を図る。																										

令和8年度 公共事業再評価

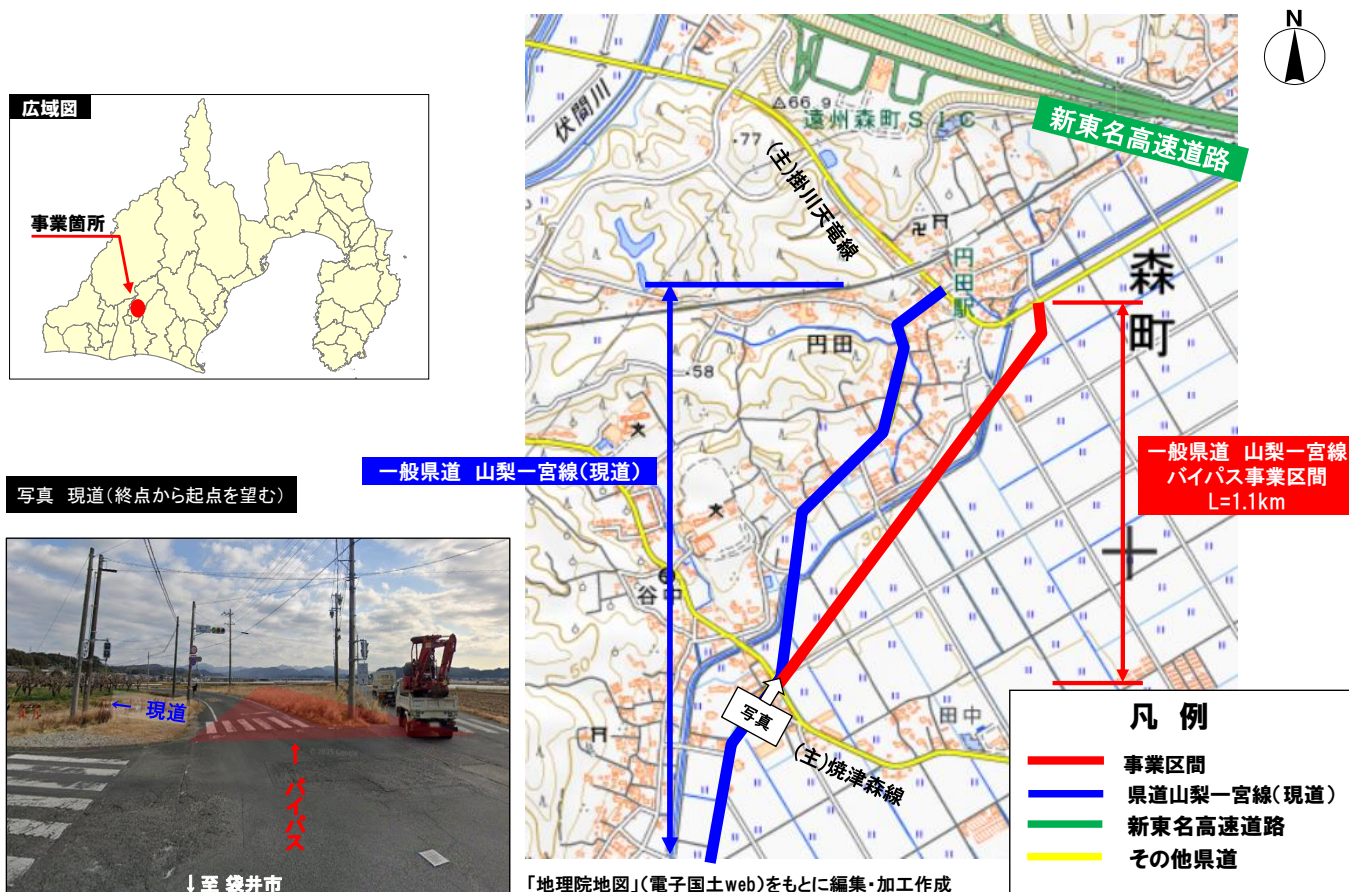
道路事業：2事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
2	道路事業	いっぱんけんどう やまなしいちのみや 一般県道 山梨一宮線	
3	道路事業	いっぱんこくどう しもながお 一般国道362号 下長尾工区	○

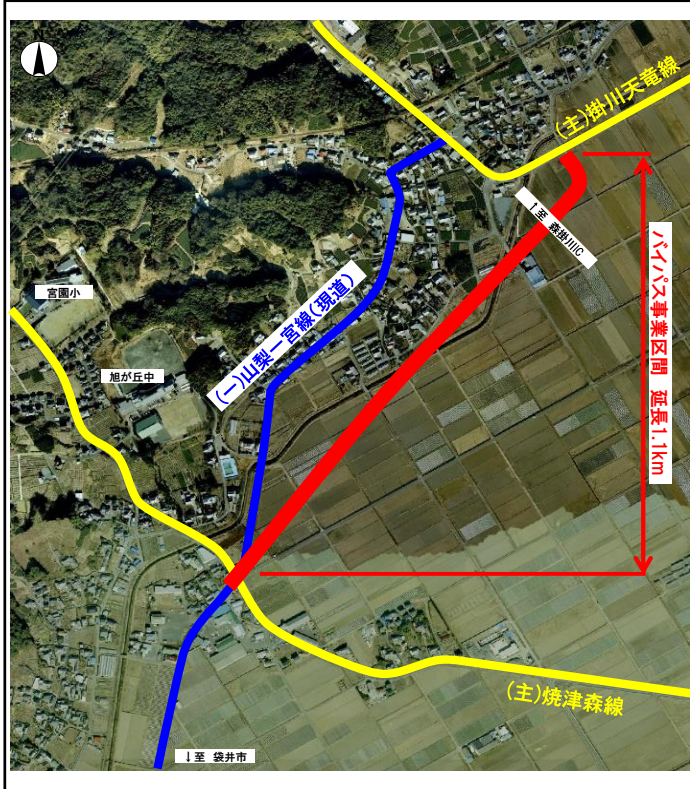
交通基盤部 道路局 道路整備課

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

詳細位置図



事業目的

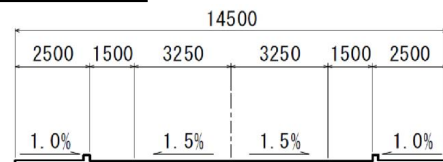
(一) 山梨一宮線は静岡県袋井市上山梨から森町門田に至る路線であり、地域交通を担う重要な幹線道路である。事業区間に並行する現道区間は歩道がなく、人家が連担した狭隘な区間であり、現道区間を利用する歩行者や通行車両の安全性向上のため、本事業によりバイパス整備を行う。

さらに、本事業区間は、新東名高速道路と東名高速道路のIC間を直結する森町袋井インター通り線の一部にも位置付けられており、本事業により広域道路ネットワークの強化にも寄与する。

事業内容

- ・ 事業期間：平成29年度～令和12年度
- ・ 事業区間：延長1.1km
- ・ 道路幅員：車道6.5m（全幅14.5m）
- ・ 車線数：2車線
- ・ 全体事業費：1,200百万円

標準横断面図



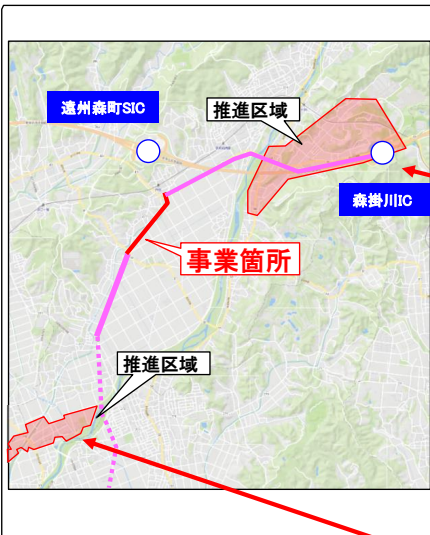
3. 事業を巡る社会情勢の変化

森町では新規事業所数が増加しており、フロンティア推進区域内では工業団地が造成され、企業立地が進んでいる。

■森町の新規事業所数



■フロンティア推進区域



■北戸錦工業団地(フロンティア推進区域)



■中川下工業団地(フロンティア推進区域)



資料：～静岡県の事業所～令和元年経済センサス-基礎調査(確報)結果)

資料：～静岡県の事業所～令和6年経済センサス-基礎調査(確報)結果)

資料：森町町勢要覧2019(森町ホームページ)

4. 事業の必要性（費用便益比）

（前回評価時）

総費用(C)	11.41億円
建設投資額	10.93億円
維持管理費	0.48億円

（9.5億円）

総便益(B)	20.86億円
走行時間短縮便益	18.52億円
走行経費減少便益	2.11億円
交通事故減少便益	0.23億円

（23.0億円）



	今回評価(R8)
費用便益比(B/C)	1.8
経済的内部収益率(EIRR)	7.7%

（2.6）

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{総便益} \times (\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益})}{\text{総費用} \times (\text{建設投資額} + \text{維持管理費} - \text{用地残存価値})}$$

※社会的割引率(4%)を用いて現在価値に換算した総計

4. 事業の必要性（事業の効果）

【広域道路ネットワークの強化】

中東遠地域には、新東名高速道路と東名高速道路のインター間を直結する道路がないことから、高速道路間を接続する(都)森町袋井インター通り線の一部を構成する本道路は、広域的な移動の円滑化に寄与し周辺地域の道路ネットワークを強化する。

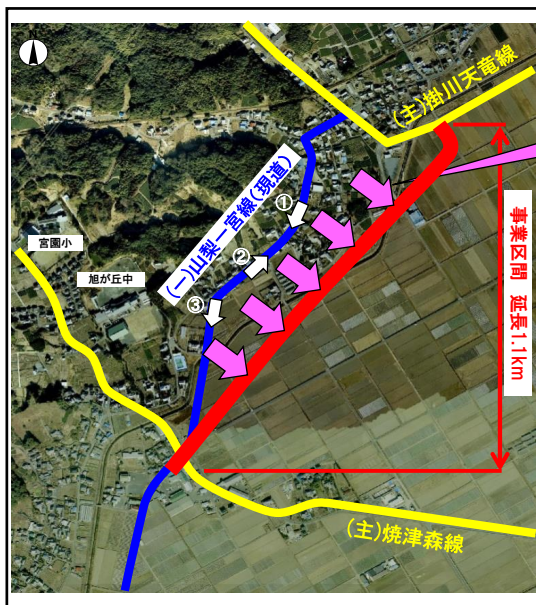
■広域道路ネットワーク概要図



4. 事業の必要性（事業の効果）

【安全な交通の確保】

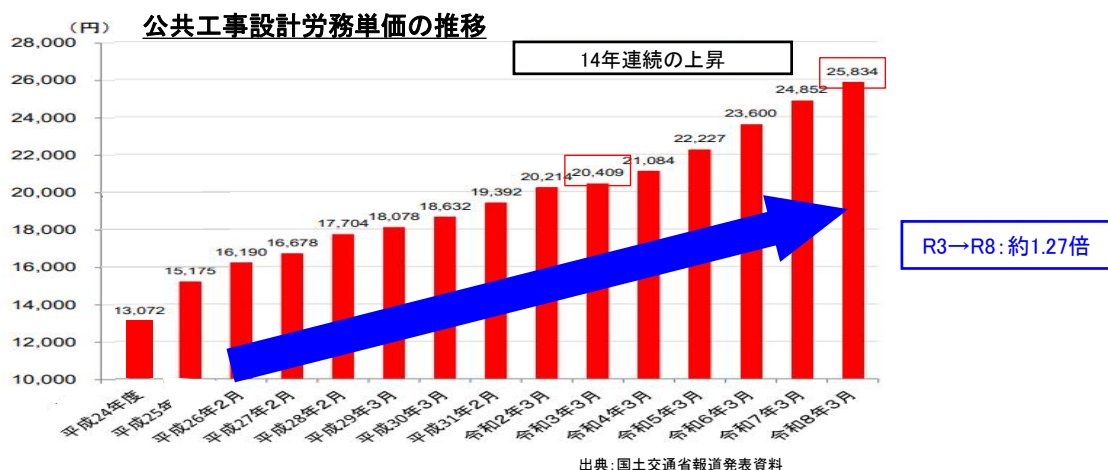
バイパス整備により、車両の交通転換が図られ、現道区間の交通量が減少することから、現道区間を利用する歩行者やバス路線などの地域交通の安全性が向上する。



5. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

	前回(R3)	今回(R8)	主な変更理由
①計画期間	H29～R8	H29～R12 (+4年)	・用地交渉の長期化 (+3年) ・用水の配水計画に関する地元との合意形成 (+2年) ※重複期間を含む
②全体事業費	950百万円	1,200百万円 (+250百万円)	・補償費の増加 (+ 60百万円) ・労務費及び材料費の上昇(+190百万円)



6. 事業の進捗状況（令和8年度末見込み）

区 分	進 捗 率	内 訳
事 業 費	38%	(461百万円 / 1,200百万円)
工 事 費	10%	(78百万円 / 794百万円)
用 地 取 得	25%	(6,508m ² / 25,858m ²)

7. 今後の事業の進捗の見込み

- ・事業内容に理解が得られていなかった地権者との契約がR7に完了し、今年度も、工場を補償対象とする地権者との契約を予定しているなど、用地取得が着実に進捗していく見込みである。
- ・また、用地を取得できた区間については工事に着手しており、今年度は140mの水路工を実施する予定である。

8. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- ・整備に必要となる約1.7万m³の盛土材について、4.2km離れた袋井市内の切土工事の発生土を活用し、工事のコスト縮減に努めていく。

9. 対応方針（案）

本事業は、

- ・東名高速道路や新東名高速道路と連携した広域道路ネットワークの強化や交通転換による地域の安全な交通の確保に資する重要な役割を果たす道路事業である。
- ・地元市町や関係者から成る建設促進期成同盟会をはじめ、多くの団体から整備推進の強い要望が出されており、地域の期待は大きい。
- ・費用便益比(B/C)は1.8と1.0を上回る。

以上から、**事業効果が大きい。**



期成同盟会による国土交通省への要望活動(R7.8.18)

事業を**継続**し、早期完成を図る。